

《短報》

下関市響灘におけるウトウの記録

久志本鉄平

下関市立しものせき水族館. 〒 750-0036 下関市あるかぼーと 6 番 1 号

はじめに

ウトウ *Cerorhinca monocerata* (Pallas, 1811) は、チドリ目ウミスズメ科の海鳥で北朝鮮からサハリン、北海道、千島列島、アリューシャン列島およびアラスカ半島からアメリカ合衆国太平洋岸北部にかけてで繁殖し、その周辺海域で越冬する (Harrison, 1983) とされ、北海道西岸沖日本海に位置する天売島では 30 万つがい弱が営巣する世界最大の繁殖地となっている (Osa & Watanuki, 2002). 繁殖地周辺で越冬するとされているが、国内では 1997 年冬に発生したナホトカ号油流出事故により本種は青森県から島根県までの富山県を除く日本海側で漂着記録され、日本海に広く分布することが知られた. さらに、山口県周辺では対馬周辺海域において 2 月から 3 月にかけて観察がされ (鴨川・山口, 1976), 2012 年 3 月に伊予灘の国東半島沖合でウトウの群れが確認されている (渡辺, 2012). 本種は沖合にいるため観察されることが少なく、これまで山口県内での文献的な記録がない.

そこで、2010 年から 2013 年にかけて本種を山口県下関の響灘で確認したので記録として残しておく.

観察地と記録

これまでに確認できたのは図 1 に示した 3 か所である.

St. 1 下関市蓋井島

2010 年 3 月 17 日、鱻井湾に面する海岸にて死亡漂着個体を確認した (図 2). 腐敗がなく目立った外傷はなかったものの右腹部に油の付着が認められた. 本個体については解剖し詳細な調査を行った. 嘴高 16.3mm, 頭長 88.8 mm, 跗蹠長 30.85 mm, 翼長 186.4 mm, 胸筋湿重量 74.13g, 肝臓湿重量 19.8g, 胃内壁硬化が見られた. 飢餓状態の臨界値, 胸筋湿重量 90.49g, 肝臓湿重量 18.69g (新妻ほか, 2001) と比較すると, 筋肉湿重量では臨界値を超えていた. これらのことから, 羽に重油がついたことにより潜水が困難になり栄養状態が悪くなった可能性が考えられた.

St. 2 下関市吉母

2011 年 3 月 28 日, 腐敗進行した漂着個体を確認. 腐敗進行していたため詳細な計測は行わず, 頭部のみ回収し頭骨標本とした (図 3).

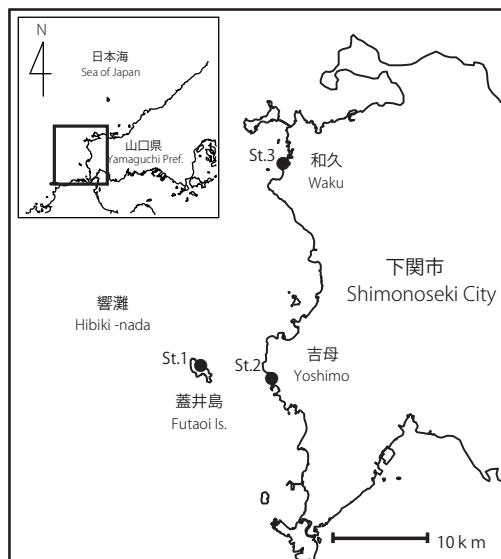


図 1 ウトウ確認場所

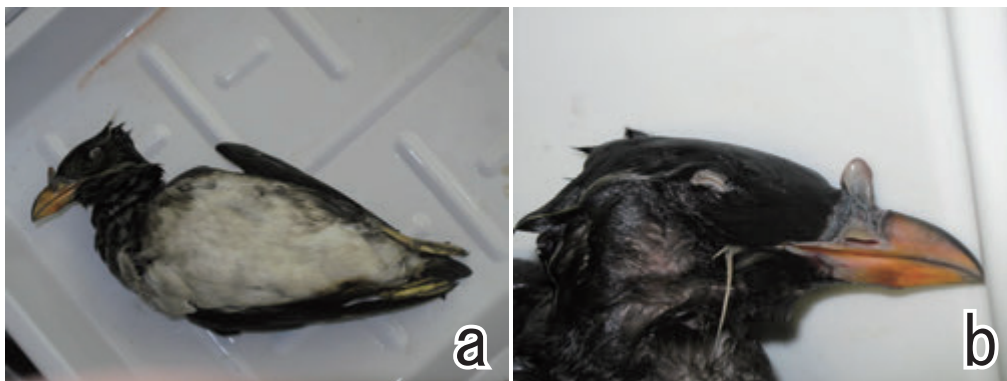


図 2. St. 1 漂着個体 (a. 全身; b. 頭部)

### St. 3 下関市豊北町大字神田上

2013年2月26日, 和久漁港波止場外側にて生存個体を確認した(図4)。近寄ってもそれほど逃げる事がなかったことから弱った個体であったと推測されるが, 水中を泳ぎ小魚を追いかける行動は確認できた。

日本海沿岸での動物プランクトン濃度は日本海南部では2~3月, 日本海北部では4~5月にピークとなることが知られ (Hirota and Hasegawa, 1999), 2~3月に本海南部に好漁場が形成されることが推測される。今回2010年3月, 2011年3月, 2013年2月と複数年にかけて本種が確認できたことから, 偶発的分布でなく2~3月にかけて山口県沖合を摂餌海域としての利用が示唆され, 本報告で確認された個体は何らかの原因で衰弱し北西からの季節風により沿岸海域へと流されたものと考えられる。



図 3. St. 2 漂着個体 (頭骨)

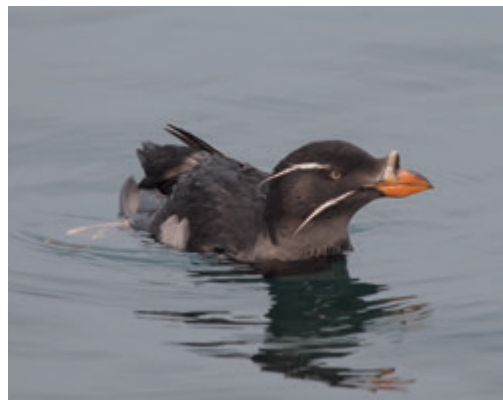


図 4. St. 3 生存個体

### 引用文献

- Harrison, P. (1983) Seabirds: an identification guide. 448pp., Houghton Mifflin Company, Boston.
- Hirota, Y. and Hasegawa, S. (1999) The zooplankton biomass in the Sea of Japan. *Fish. Oceanogr.*, **8**: 274-283.
- Osa, Y. and Watanuki, Y. (2002) Status of seabirds breeding in Hokkaido. *J. Yamashina Inst. Ornithol.*, **33**:107-141.
- 鴨川 誠・山口鉄男(1976)「対馬の鳥類」pp.181-237, 長崎県生物学会(編), 対馬の自然, 長崎生物学会, 長崎.
- 新妻靖章・石川宏治・森 宏枝・荒木葉子・長 雄一・綿貫 豊 (2001) ナホトカ号油流出事故によって死亡したウトウの外部形態と栄養状態に関する報告. 日本野鳥の会研究報告, **19**: 81-89.
- 渡辺浩幸・山本英恵・岩崎 脩・竹本明日香・黒田ゆうび・植松眞理・植松明香・森千恵子・植松一良 (2012) 瀬戸内海洋上でのウトウの観察記録, 178pp., 日本鳥学会大会講演要旨集.